

まちづくりは人づくり。若者が定住するまちを目指し農と工が一体のまちづくり



後藤 康治 こうこうじ
KOUJI GOTOU

□プロフィール
榊登米精巧代表取締役。現在は(財)みやぎ産業振興機構評議員、(社)みやぎ工業会理事、登米市産業振興会総務企画委員長、登米市行財政改革推進委員会委員。4世代の9人家族。会社を運営する傍ら農業も兼業。

市長 皆さん、あけましておめでとうございます。平成17年4月に9つのまちが合併して「登米市」が誕生しましたが、早いもので3回目のお正月を迎えました。

これまで市では、合併の契機となった消防防災センター、火葬場、汚泥再生共同処理センター、養護老人ホームの「広域4事業」の整備を進めてきており、昨年中にすべて着手することができました。

そのほか、職員定数削減や指定管理者制度の活用による施設の管理運営、民間委託推進などの行財政改革、市内小中学校と市立病院の耐震診断など、合併協議で引き継いだ事業を行うとともに、市としての新たな課題や事業にも取り組んできました。

また、市立5病院の問題では、地域にとって真に必要な医療体制を構築するため、経営改善や5病院の再編などに向けたさまざまな取り組みを行ってきました。これは、合併したからこそできる取り組みの一つであり、合併しなければ破たんする病院もあったのではないかと思っております。今後も、これまで取り組んできた課題に手を掛け、市民皆さんに必要な医療が確保できるように、さらなる努力をしていきます。

司会 市長から合併後の取り組みが紹介されましたが、皆さんから見た

これまでのまちづくり

これまでのまちづくりについての成果や問題点などについて、ご意見やご感想をお聞かせください。

後藤 合併については、これまでも行われてきましたが、全然抵抗がありませんでした。わたしが住む新田地区も迫町になって当時は役所が遠くなりましたが、交通手段も多くなったので不便さはありませんでした。現在も中田・南方庁舎に行くには車を使えばすぐですから、個人的には全然不便さを感じてはいません。合併したデメリットは何かと考えると、これまで地元で見たことがない職員が異動で配置され、用足しをする際に少し戸惑うことがある程度です。

市長 合併して当然メリット・デメリットはあると思います。旧町ごとに予算の使い方が違っていましたが、それが市になり平準化されたことで、サービスが低下したと感ずる人もいると思います。

逆に合併して良かったと思うことの1つは、医師の奨学金制度を実施することができたことです。お金を捻出することは一つの町ではなかなか難しいので、合併したスケールメリットは大きかった。

また、市民皆さんの足となる市民バスなどの公共交通機関も充実できました。合併しない場合、各町の持ち寄りでの市民バス事業を実施しようとしても、予算や各町の連携が困難となることも予想され、現在の路線

『合併4年目の登米市』 これまでのまちづくり、 これからのまちづくりを語る。

あけましておめでとうございます。平成20年がスタートしましたが、昨年は明るい話題、暗い話題など、さまざまなことがありました。平成17年4月の市町村合併により、「登米市」が誕生して4年目となる今年は、いったいどんな出来事が待っているのでしょうか。

新しい年を迎え、登米市のまちづくりについての成果と問題、今後の方向性などを検証するため、新春座談会を開催しました。テーマは「これまでのまちづくり、これからのまちづくり」。市内の産業・教育・福祉に関係する皆さんに参加していただき、話し合ってもらいましたので紹介します。

出席者

- 後藤 康治さん (迫町倉崎・55歳)
- 鎌田 正美さん (南方町峯・42歳)
- 及川 さよ子さん (中田町弥勒寺北・46歳)
- 秋山 祐子さん (東和町米川第2区・37歳)
- 布施 孝尚 (登米市長)
- 〔司会〕真山 誠喜 (総務部市長公室長)



鎌田 正美 かまだまさみ
MASAMI KAMADA

□プロフィール
鎌田造園代表。元登米地域合併協議会まちづくり検討委員会委員、南方町PTA連絡協議会会長。現在は南方地域審議会委員、都市計画市民懇談会委員、使用料・補助金等見直し懇話会委員として活躍。7人家族。



よく 広大で肥沃な土地や 森林、河川などの資源が豊富なことは財産。積極的な宣伝を